

令和 5 年 6 月 21 日現在

機関番号：22702

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2022

課題番号：20K10992

研究課題名（和文）措置入院者における退院支援に向けたケア技術の整備と看護ガイドラインの開発

研究課題名（英文）Development of Care Techniques and Nursing Guidelines for Supporting Discharge of Hospitalized Patients for measures

研究代表者

阿保 真由美（Mayumi, Abo）

神奈川県立保健福祉大学・保健福祉学部・講師

研究者番号：30644596

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、多職種連携の実態を明らかにするとともに患者及びその家族の社会的状況などを考慮して入院先で実践されるケア内容を明確化することによりケア技術を整備し、看護ガイドラインを構築することである。

そこで、精神科救急病棟に勤務する看護師を対象とし、措置入院者へ実践したケア内容について面接調査を実施し、それらの成果を参考にケア技術を整備し、看護ガイドラインの構築に取り組んだ。

研究成果の学術的意義や社会的意義

措置入院者は、自傷他害の恐れが逼迫し、やむを得ず行動制限が必要となる場合が多いが、精神科医療における非自発的な介入が、それを受けた者に深い心的外傷を与えることも指摘されている。このため、権利擁護を重視して信頼関係を築き、その人らしい暮らしにむけて患者と協働する姿勢が、より一層求められている。

患者の主体性を高める看護ケアが入院医療の質を高め、多職種による連携が促進されるとともに精神障がい者の措置入院後の社会復帰を後押しすることに寄与するものと考えられる。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to clarify the reality of multidisciplinary cooperation and to develop care techniques and establish nursing guidelines by clarifying the content of care practiced at the hospitalization site, taking into consideration the social situation of the patients and their families.

Therefore, we conducted an interview survey of nurses working in psychiatric emergency wards regarding the care they provided to patients who were hospitalized for measures, developed care techniques based on the results, and worked to establish nursing guidelines.

研究分野：精神保健看護

キーワード：措置入院 退院支援 精神看護 看護ケア 多職種連携

1. 研究開始当初の背景

我が国の精神疾患を有する総患者数は約 392.4 万人であり、その数は年々上昇している。精神障がい者が地域の一員として自分らしい暮らしができるよう地域包括ケアシステムの構築が重要である。さらに、多様な精神疾患などにおいても患者本位の医療を実現していけるような医療連携体制の充実が切望されている。

入院形態別の在院患者数については、任意入院 155,122 人に対し、非自発的入院である医療保護入院 131,924 人、措置入院 1,503 人が過半数を占める(厚生労働省, 2018)。隔離・拘束などの行動制限をせざるを得ないケースが多いことも併せて国際的な課題となっている。特に、措置入院者は、その理由故、医療者の安全性も脅かされる状況下では、やむを得ず行動制限が必要となる場合が多い。精神科医療における非自発的な介入が、それを受けた者に深い心的外傷を与えることも指摘されている。このため、権利擁護を重視して信頼関係、治療関係を築き、その人らしい暮らしにむけて協働する姿勢が、より一層求められている。

2018 年「地方公共団体による精神障害者の退院後支援に関するガイドライン」が策定されたが、入院治療について言及されていない。殊に、措置入院者は一般に重症度が高く、治療上複雑なニーズを抱えていることが少なくない。医療保護入院者と比較して、ソーシャルサポートが乏しい、措置解除後の支援体制が十分でない(日本精神科救急学会, 2020)などの支援不備も指摘されている。このため、精神障がい者の地域生活包括支援にむけて入院中から退院後も含め、多職種間連携による支援を充実させることが喫緊の課題といえる。

精神障がい者の地域生活包括支援においては、退院に向けた多職種間の協働による取り組みが行われているが、措置入院後、病院による患者及びその家族に対する退院支援に関する取り組みへの研究蓄積は少なく、具体的な指針は示されておらず、実態は明らかでない。重症度が高く、支援体制が十分でない措置入院者がその人らしい生活を送るために、尊厳や権利を擁護して援助的人間関係を築き、医療的側面のみならず、生活機能や環境、社会参加等の課題を含む本人の支援ニーズを多角的にアセスメントし、適切なケアを行う必要がある。そこで、患者及びその家族の社会的状況などを考慮して入院先で実践されるケア内容を明確化することによりケア技術を整備し、看護ガイドラインの構築が必要であると考えた。

2. 研究の目的

本研究では、多職種連携の実態を明らかにするとともに患者及びその家族の社会的状況などを考慮して入院先で実践されるケア内容を明確化することによりケア技術を整備し、看護ガイドラインを構築することを目的とした。

3. 研究の方法

本研究全過程を通して倫理的配慮を行い、研究代表者前所属機関研究倫理委員会の承認(保大第 7-20-47)を得て実施した。

(1) 先行研究の文献検討により、患者・家族への入院中の支援について示唆を得た。

(2) 措置入院者へ入院先で実践されるケア内容の明確化、多職種連携実態調査の実施

国・都道府県立病院または指定病院の精神科救急病棟に勤務し、措置入院者の看護ケアに携わる経験を 5 年以上持つ看護師を対象とし、インタビューガイドに沿った半構造化面接を実施した。措置入院者の生活史、社会背景も視点に入れた看護師の意図を含む実践内容の語りからケア内容、多職種連携の実態について調査した。

(3) 看護ガイドラインの構築

研究成果を踏まえてケア内容・技術を整備し、ガイドライン項目毎に整理した。

4. 研究成果

(1) 措置入院者へ実践したケア内容に関する面接調査

精神科救急病棟勤務看護師の語りから逐語録を質的帰納的に分析した結果、【安全を守るためのケア】【入院時アセスメント】【セルフケアに関するケア】【関係性構築のためのケア】【方針の検討と目標設定の共有】【薬物療法実施のためのケア】【対人関係に関するケア】【疾病管理能力を高めるためのケア】【家族へのケア】【退院にむけた支援】【移送支援】など11のカテゴリー、50のサブカテゴリー、144のコードに分類された。

自傷他害のおそれがあると認められ、行政処分で措置入院となるため、非自発的入院で行動制限をせざるを得ないケースも多い。看護師は、《措置入院者の心情への理解》し、《対人関係への基本姿勢》で《感情をコントロール》しながら《意図的に関わる》ことを通して援助的人間関係を築く【関係性構築のためのケア】を重視し、実践していた。並行して、《職員・患者の安全を守る》ことを最優先し、《措置要件の把握》《危険物の除去》《易刺激性への配慮》《粗暴性と環境を考慮》し、トラウマインフォームドケアも意識して《人権擁護》《処遇検討》《離院リスクへの注意》《行動制限最小化》といった【安全を守るためのケア】を実践し、基盤としていた。

さらに、病識を得て主体的な治療にむけて疾病管理能力や対人交流能力が高まるよう意識的に【心理社会的治療のためのケア】を実践していた。この過程において、《何度も向き合う》《思いの表出をはかる》《希望の表出をはかる》《主体性を引き出す》《人を活用してよいことを伝える》《看護師の解釈を伝える》《理想化とこきおろしに慎重・丁寧に関わる》《怒りと適度の距離を支援》《いずれ理解されることを期待し関わる》などの【対人関係に関するケア】を実践していることも特徴的であり、看護師の意図が溢れていた。

【退院にむけた支援】としては、生活機能や環境、社会参加などの本人の支援ニーズを多角的にアセスメントし、《退院後の生活の想定》《情報提供》《プログラムの活用》《消退届提出前後の支援》《本人・家族への教育的関わり》《措置解除後外泊支援》《部屋を借り、生活保護受給のための支援》など家族も含めた支援・連携がなされていることが明らかとなった。

(2) 多職種連携の実態調査

多職種連携については、《入院前～入院中の情報》《関わり方》《治療方針》《退院後を見据えた今後の方針》《患者が語った今後の人生の目標》を【共有】し、《退院後の生活》《現在の病状と今後の治療方針》《症状再燃に関するアセスメント》《地域に帰るために何が必要かストレングスも含めて調整》するなど、《訪問看護導入》も含め《多職種を招き複数回カンファレンスを開催》し、【検討】していた。本人、家族の意向を尊重し、ニーズに基づいた支援提供をめざして環境調整、連携、支援体制の構築をはかっていることが明らかとなった。

(3) 措置入院者への看護ガイドラインの構築

上記研究成果を踏まえて様々な文献をもとに5つの焦点、17領域に整理した。以下に、看護ガイドラインのケアの領域について記す(表1)。

表1 ケアの領域

入院初期の状態査定・生理的ニーズの充足

- ・入院時観察・アセスメント
(精神症状、自傷・他害、暴力等行動リスク、身体症状、心理社会的困難性等)
- ・セルフケア・生理的ニーズの充足に関するケア
- ・関係性構築のためのケア (特性に十分配慮したコミュニケーションと環境の提供、

<p>強制的な介入を避けるトラウマインフォームドケア)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・方針の検討と目標設定の共有
<p>身体的な健康問題への対処とケア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般的な知識・技術を持ったケア ・検査・治療などの付き添い、指定病院外への治療・移送のためのケア
<p>精神的な健康問題への対処とケア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自傷他害を防止し、安全を守るためのケア <ul style="list-style-type: none"> *ディエスカレーションと組織的対応 *自殺リスクのアセスメントとケア *行動制限最小化 *措置症状の消退、自傷・他害のおそれの消失への観察とアセスメント 措置解除にむけた主体的参加を促すためのケア ・修正型電気けいれん療法実施時のケア ・精神科的治療に伴う合併症に関するケア
<p>心理社会的治療のためのケア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対人関係に関するケア ・薬物療法実施のためのケア ・疾病理解・服薬アドヒアランス・疾病管理能力を高めるためのケア (主体的参加を促し、共同意思決定プロセスをふまえた心理教育、クライシスプラン) ・依存症プログラム実施のためのケア ・精神科リハビリテーション実施のためのケア
<p>退院後の生活に向けたケア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・退院後支援のニーズに関するアセスメント ・家族に関するケア ・退院後にむけた準備 (退院後支援計画、共同指導、自治体・訪問看護など連携先との協力体制の構築)

(4) 今後の課題

入院先で実践されるケア内容の明確化をめざして面接調査を実施したが、入院直後のケアに関する詳細な語りと比較すると退院支援過程における語りは少なかった。このため、参加観察により総合的多元的に分析し、多職種連携状況においても患者家族と退院前支援ニーズに沿った実践・調整・働きかけ、他職種や自治体との協働の実態を具現化し整備する予定であった。しかしながら、新型コロナウイルス感染拡大により病院施設において調査できぬまま、面接調査、文献をもとにケア技術を整備し、ガイドラインを策定するに至った。

入院医療の質を高めるべく指針を提示できたと考えるが、より支援に活用できるガイドラインを作成できるよう内容の洗練化をはかり、試行、有用性を調査していくことが課題である。

<引用文献>

最近の精神保健医療福祉施策の動向について、第1回精神保健福祉士の養成の在り方等に関する検討会資料2、平成30年12月18日、厚生労働省、2018

杉山直也ほか、措置入院に係る診療ガイドライン、一般社団法人 日本精神科救急学会、2020

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 阿保真由美 渡辺純子
2. 発表標題 措置入院者へ入院先で実践されるケア内容
3. 学会等名 第32回 日本精神保健看護学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 阿保真由美
2. 発表標題 措置入院者への多職種の支援に関する文献検討
3. 学会等名 第31回 日本精神保健看護学会学術集会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	渡辺 純子 (Junko Watanabe) (40644597)	昭和大学・保健医療学部・准教授 (32622)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------